

朝鮮に於ける作戰準備

概説

朝鮮軍の任務は朝鮮防衛に在ると共に對ソ作戰生起の場合関東軍の作戰計畫に即應ずる兵站交通計畫中朝鮮が負担する糧秣運搬具等の集積と計畫するに止まりたり、即ち軍の作戰計畫は疆内の治安確保の外は羅津永興灣鎮海灣（後釜山と改稱す）の要塞の防備を嚴にすると共に京城、平壤、其他の重要都市の防空戦備を完成する程度なりしが對ソ國際情勢は比較的平静を持續しよりたると對ソ開戦回避希望の間一方に於ては對ソ作戰準備を完整するの要あり、関東軍との間に密接なる關係を生じ對米、對ソ二正面の作戰準備を必要とせり以下主として對米國土決戦準備に就き情勢の推移と兵備の關係に基き昭和三年三月五月終戦までの三期に分し其の概要を記述せんとす資料焼却のため調査を分るより將來訂正を要するものあり

第一章 昭和十六年七月以降昭和十九年末頃までの間に於ける戦争準備

第一節 一般状況

昭和十六年七月所謂「臨特演」開始せらるゝや朝鮮に在りては第十九（羅南）第三十二（咸興）兩師團独立混成旅第一旅隊の編成、茲に勳員羅津、永興、灣釜山、羅水、四、要塞戦備、

下令及全朝鮮防空下令あり對南方作戰間北方の守を固めざるべし對ノ防衛態勢を怠るゝるか同年十二月大東亜戦争勃発以降昭和十九年春季頃までの三年間朝鮮は無凡地帯として概ね右態勢を持續するに過ぎざるのみならず敵の反攻進展に伴い兵力は直接作戰方面に充當せらる結果既に朝鮮に配備せられたる兵力中よりも野戰師團高射砲部隊要塞部隊等は作戦地及び日本本土並びに島嶼方面に轉用せらるるに至り朝鮮としては主として大東亜戦争に對し師團並に軍直轄部隊の多數を南方に派遣せらるゝと甚だ軍需資材の追送補給軍需生産の増強に邁進し特に朝鮮に於ける天然資源電力勞務方面の豊富なる人的物的戦力は戦争遂行の原動力として貢獻せる所蓋し絶大なるものあり

先づ軍の兵力量の推移を見るに附表第一の如く屢々師團以下の動員に依り増加せられたるも其の殆んど大部は常に第一線増強或は補充に使用せられ大東亜戦争開始後昭和二十年始頃までは軍の保有兵力は多少の増加を示したるも單

に防衛のための兵力量に過ぎず主力を擧げて第一線に参加したりと謂えし。即ち昭和十八年一月には先づ第三師團（長中將青木重誠）は「コウギニヤ」方面第十七軍司令官の部下に入らしめられ同師團はフィニンハーヘン附近に於て敵の上陸と撃破し杉野舟艇隊を以てする逆上陸の先例を開き昭和十八年秋季大本營の南東方面に對する作戰方針持久に轉換するや昭和十九年三月には伊集院少將の指揮する第八派遣（第十九師團の混成歩兵三大隊、山砲兵二大隊、工兵一中隊、基幹工高射砲第三中隊）を中部太平洋方面に派遣し昭和十九年三月大本營の南西方面統帥組織の元化に伴う同年五月には第三十師團（長中將兩角業作）は比島方面第十四方面軍司令官の隷下に編入せられ同師團の一部はレイテ島の攻防戦に参加し越えて同年六月には第四十九師團（長中將竹原三郎）は南方軍總司令官の隷下に抽出轉用せられ十月更に緬甸方面に派遣せられ昭和十九年^{八月}大本營の比島方面決戦態勢強化の方針決定に伴い昭和二十年一月には第十九師團（長中將尾崎義春）を南比島方面に派遣しその他軍直轄部隊の抽出轉用せられるもの多数に上りたり

更に朝鮮に於ける兵站^的戦争準備を見るに軍需動員としての資源開発増産は朝鮮に課せられた一大使命たると共に大陸交通幹線を確保して軍の天兵站線を構成し軍隊、軍需品の輸送をして支障なからしめ所謂兵站基地朝鮮と稱せられたり

然れども朝鮮に於ける生産施設はその大部を擧げて原材料の生産機関として存在し綜合一貫的施設と悉く内地に集中しありたるは国軍戦争遂行上の天弱と云なりき

更に兵備の増強に伴う兵員の充足は朝鮮二千六百萬に期待する所大にして軍に徴兵制の施行を具申して皇軍資質の向上は邁進し遂に昭和十九年劃期的徴兵制の施行を見るに至り多数の壯丁を戦場に送り、軍の戦力を増強すると共に他面莫大なる勞務の供給を圖り戦争遂行に寄與せり

斯くの如く朝鮮に於ける戦争準備は第一線に非ざるして内面的後方的に戦力増強に貢獻せる所絶大なりといふべし

第一章 昭和十六年七月以降昭和十九年末頃まで

第一節 沿岸防備の強化

軍は昭和十六年以來對ソ防衛の方針に基き同境の守備に對し沿岸に於ける警備を重視しよりしが昭和十九年春李頃より敵潜水艦の本土近海に於ける出没漸次頻繁となれる。鑑み軍は總督府に連繫して西南海岸に於ける沿岸監視を嚴にすると共に敵潜水艦の奇襲上陸沿岸砲撃擾亂等を顧慮し就中五月既に完成せる濟州島飛行場を重視し六月迄の如く沿岸防禦隊を編成派遣せり。

濟州島沿岸防禦隊は京城師團より歩兵中隊機關銃一小隊、馬山重砲兵聯隊補充隊より野砲一小隊を以て混成の基幹要員の少くしその總員僅かに十数名。その不足要員は當時濟州島に在りし特設警備第四百五中隊の待命要員を以て充つることとせり。

即ち當時に於ける濟州島の守備兵力は總員約二百名にして専ら濟州島飛行場の警備に任じ敵の大部隊の上陸の如きは夢想だもしあらず又軍として派遣し得る兵力も當時留守三箇師團の現狀に鑑み止むを得ざる所なりき。爾後一年。

を經過せる昭和二年六月頃に於て濟州島に投入せる兵力は三箇師團半約七萬五千に達したり

右派遣と共に東海岸方面に於ける敵潜水艦出没の情報は依り京城師團を以て山砲大隊（独立自動車第三百中隊の自動車五輛を偏し）を三陟附近に派遣せしめ機動配置を取らしめたり。此東海岸江原道方面は軍隊の配置一兵すらなく一は情報収集の目的も兼ねしめたり。右派遣隊は爾後本浦地を飛禽島に電波警戒機展開せしむるに伴ひ同年十二月同島に轉進せしめ航空情報隊長の指揮下に入らしめたり

沿岸警備の必要増大せるに鑑み軍は總督府と連絡し三陟次で本浦附近に於て軍官民合同の沿岸警備研究演習を実施しその結果に基き沿岸警備の指針を編纂配賦せり

沿岸防備の強化と共に對潜警戒は船舶の損耗増加に伴ひ重要な問題となり朝鮮近海に於ける對潜警戒は専ら海軍の担任にして陸艦隊は

航空機を以てしその主力は鎮海に在りて從來主として関釜連絡船の格護に任じありしが南方との船舶航行大陸接岸航路を選定するの必要に至るや新に海上護衛總司令部創設せし朝鮮近海に於りて對潜警戒を強化するに至れり

即ち陸軍は平壤に在りし朝鮮軍直協飛行隊を昭和十九年四月新に指揮下に入りし西部軍直協飛行隊を群山に配置し海軍の指揮の下、東海方面の哨戒に任せしめたり

然るに兩飛行隊は昭和十九年八月天々南方に派遣せられ爲に對潜哨戒は一時中止の必要に至りたるを以て屢々中央に意見を具申せるが同年十月関東軍より独立飛行第六中隊を轉属せられたるを以て当初これを群山に次ぎ海雲台及び木浦に展開せしめ船團直接掩護並に哨戒任務につかしめたり

第二節 濟州島の防備強化

昭和十九年十月敵の北島上陸に伴ひ濟州島の防備強化は軍として真剣なる問題となれり既に一部の部隊を濟州島に派遣する所ありしも單なる監視兵力程度に過ぎず而して濟州島の防備相任せえ來陸海軍中央協定に基き海軍の相任せする所なりしも海軍の守備兵力は殆んど皆無に等しく一方陸軍に於ては震水要塞司令官として同島

の防衛を担任せしめありしを、この頃また任務過重の状況にありき。茲に於て軍は情勢に應じ、最少限歩兵一旅隊基幹の部隊を派遣するを目途とし研究する所ありしも、当時軍の保有兵力としては留守三箇師團にして夫々管内の防衛を担当し歩兵一旅隊以上の有刀なき部隊を派遣することは困難なる状況に在りき。これが爲て詔三案を土月中央に意見具申したるも、当時の中央に於ては比島方面の作戰に専念しありて、済州島に對しては全く考慮する所なかりき。

第一案 混成旅団の常駐

第二案 要塞部隊の設置

第三案 止むを得ざる場合は少將級を長とする司令部指揮機關の設置

斯くして土月に入るや防衛總司令部も漸くその重要性を認識し幕僚を派遣し済州島、木浦、群山地区を視察するに至り、同月末沿岸築城に關し指示するところありたり。

防衛總司令部より指示せられたる築城計畫の要旨左の如し。

ハ方針

南齊沿岸地区に於ける船舶航行路に泊地を掩護すると共に沿岸防備を強化し併せて舟艇基地を設定す

ニ海上交通保護

洛州島、木浦、麗水を含む地域の間、船舶航行路に泊地を掩護すると共に臨時砲台を構築す

三沿岸防禦

臨時砲台の掩護地と上陸防禦のため左の如く築城を実施す

洛州島 歩兵五箇大隊分

木浦附近 歩兵二箇大隊分

群山附近 歩兵一箇大隊分

四舟艇基地の設定

将来小型舟艇に依る沿岸航路帯設定を目的とし木浦、麗水、洛州島間の地域に舟艇基地を設定す

右施設は昭和二十年概ね三月末概成を目的とし骨幹中の骨幹陣地のナミ

軍は右指示に基き昭和二十年初頭より現地偵察を開始することとせり

軍の計畫並に隊備附圖第一その二の如し 而て築城は將來の兵力派遣を顧慮したの如く担任せしむることとせり

各州島 平壤師團

本浦及び
地 京城師團

右の外防衛總司令部より配属せらるる第三、第十一師隊を平壤師團に協力せしむる
と共に各州島特設警備隊工兵第四百八大隊を召集し築城に協力せしむる如く計畫
せり

第三節 防衛並に作戰に關する關東軍との關係

防衛に關しては從來「朝鮮軍」關東軍「防衛軍」關東防衛軍「防衛に關する協定」に基き國境附近に
於ける警備擔任を分防空情報等に關し規定し実施し來りたるも昭和十九年
九月一部これを改訂せり

作戰に關しては對之作戰を「乙作戰」と稱し之の如く大本營より指示せられありたり

ハ乙作戦生起に方りては第十九師團混成第百一聯隊及び羅津要塞は関東軍の
隷下に属し且咸鏡北道は同軍の
作戦地域に入らむ

又別に朝鮮軍より各歩兵四箇大隊を基幹とする部隊を関東軍總司令官の指
揮下に入らしむ

又関東軍總司令官は咸鏡北道地域内に於る朝鮮軍隷下部隊に對し教育訓練其
の他同地域に於ける情報通信築城兵站に關し朝鮮軍司令官を又處するに可
得

又大陸指示に基き軍力對ソ作戦計畫を策定しあり且第十九師團(混成第百一聯隊
を隷屬しあり)は関東軍總司令官の指示に依り特種陣地攻撃に關する訓練
密林濕地地帯通過に對する訓練に専念し関東軍に於ける各種演習教育
にも参加しありき

昭和十八年^{八月}第三師團新に編成せらるゝや同師團もまた將來関東軍に使用を予定
せられ作戦準備教育訓練に關し連絡指示せらるゝ所ありしも未だ訓練の成果を
見ずして南方に轉用せらるゝに至れり